

# 私を成長させてくれたもの

棚倉小学校 6年

金澤 遥奈（かなざわ はるな）



突然ですが、なぞなぞです。山から吹く風を何というでしょう。正解は、嵐です。皆さん分りましたか。さらに問題です。では、このなぞなぞは、いつごろから日本で言われているのでしょうか。これはちょっと難しいですね。正解は、平安時代です。証拠があります。「吹くからに秋の草木をしをるればむべ山風をあらしというらむ」これは、平安時代の歌人、文屋康秀が詠んだ和歌です。百人一首にも選ばれています。「山から風が吹くと秋の草木が荒らされたようにしおれてしまうので、だから山から吹き下ろす風のことを嵐というのでしょう。」という意味の歌です。山と風で嵐になるという言葉遊びや嵐と荒らしの掛詞つまり、しゃれが入っている、とても面白い和歌です。

私が今、夢中になっているのは百人一首です。皆さんは、百人一首という聞いてどんな印象を受けられるでしょう。おそらく、よくわからない、難しそうという印象がほとんどではないでしょうか。私も初めはそうでした。ですが今は、すっかり百人一首のとりこになっています。百人一首には、先ほど取り上げた歌の面白さの他にも魅力があり、それは、私を大きく成長させてくれたからです。

私が百人一首と出会ったのは、四年生の時でした。きっかけは、担任の先生の「新しい遊びがあるからやってみよう。」という一言でした。先生が取り出したのは、五色百人一首というカードでした。五色百人一首とは、小倉百人一首を二十枚一組に色分けし、教室でも短時間で取り組むことができるように工夫された百人一首です。先生が詠みだした意味も分からない和歌に「何、この遊び難しいな。」と思いました。でも、繰り返しやっていくうちに、和歌を覚えることもできるようになり「楽しい。」と思えるようになりました。いつの間にか「こんなに面白い遊びがあったのだ。」という気持ちでいっぱいになっていて、休み時間も夢中になって遊ぶようになりました。そして、百人一首は、私の特技になりました。好きなことや得意なことがなかった私にとって、この五色百人一首との出会いはとても大きなことでした。

ある日、家族に「夢中になれることが見つかってよかったね。」と言われてとてもうれしくなったのを覚えています。

このように夢中になれることが見つかったことで、私は百人一首以外のことにも前向きに取り組むことができるようになりました。私を積極的にしてくれた百人一首。これが百人一首の魅力の一つ目です。

二つ目の魅力は、百人一首は努力の大切さを教えてくれるということです。私は四年生の時から、五色百人一首の県大会に毎年出場しています。四年生の時は、大会の一か月前ぐらいから、毎日のように家でも学校でも練習をしました。その結果、県で三位になることができました。五年生の時は四位。三位決定戦で敗れ、賞状もメダルももらえず、とても悔しい思いをしました。負けた原因は明らかに練習不足。私は「去年ぐらいの練習で三位になれたのだから、大丈夫だろう。」とあまり練習をしなかったのです。コツコツと時間を上手に使って練習し、人に負けないぐらいの努力をしていれば、あんなに悔しい思いはしなかったでしょう。この反省から、私は今年の大大会に向け、空いた時間を見つけては練習に励みました。その結果、地区予選はトップで通過し、県大会では優勝こそ逃しましたが二位になることができました。努力は裏切らない。百人一首は、私に一生役に立つ教訓を教えてくださいました。

私は、百人一首に出会えたことで大きく成長することができました。何事にも積極的に取り組むこと、努力を怠らないこと、これらのことを百人一首と一緒にこれからずっと大切にしていきたいと思います。